

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との馴染みの関係は行事に参加してもらったりすることで職員とも交流出来ている。 職員にも見える位置に基本理念は掲示してあり共有している。	法人理念とホームの運営方針については来訪者と職員の目に付き易い玄関と事務所に掲示し共有と実践に努めている。方針の中にある地域との連携の重要性について月1回のケア会議の中で話し合い、実践に繋げている。また、利用者の居場所や行動等について疑問点を感じられる時には職員間で話し合い、利用者一人ひとりに合った支援に取り組んでいる。若い職員が多いが理念を理解し、利用者に寄り添っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	おたっしやカフェや、地域の方への配布物、入居者さんとの散歩など地域とのつながりを保っている。 地域の方の力をお借りして畑作りや、行事食も行なっている。	自治会費を納め地域の一員として活動している。地域のゴミゼロ運動、公民館の掃除、お祭りへの参加(利用者の見学、参加する職員の準備・後片付)等、できる行事について積極的に参加している。おたっしやカフェ、サルビア祭り、防災訓練等行事に合わせ近隣に案内状をポストイングし、地域の皆様に来訪頂き交流を深めている。また、行事に合わせ運営推進会議を開催し地域の皆様にも出席いただき、当ホームへの理解を深めていただいている。特におたっしやカフェについては警察署員の出席もいただき、交通安全、特殊詐欺などについて講話をいただき参加者より好評を得ている。地域ボランティアの来訪も数多く、絵手紙、サウンドセラピー、ハーモニカ演奏等を楽しんでいる。更に、ボランティア交流の一環として「蕎麦会」や「饅頭作り」等も楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月一回のおたっしやカフェに入居者さんにも参加して頂き、交流を図っている。また、グループホームに地域の方がボランティア等で来ていただいていることで認知症の方を知る機会につながっていると思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み	運営会議へは代表者と管理者が主に参加している。そこでの話し合いを議事録に残している。避難訓練は特に意見が出やすいため、そこでの意見を活かしながら次回に繋げている。	家族代表、隣組等地域代表、近隣住民、地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催している。活動内容の報告、防災訓練・事故報告、身体拘束適正化委員会報告、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。ホームの行事に合わせ開催し近隣住民の出席も頂き、意見交換も活発で有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は地域包括の職員や高齢福祉課との連携はとっている。 派遣相談員の方にも月一回来ていただいで中野様子を見てもらっている。	地域包括支援センターとは連携を深めており、毎月の「おたっしやカフェ」を始めとし、様々な事柄について協力を頂いている。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームにて行い、家族も立ち会い調査員と話をしている。市の派遣(介護)相談員の来訪が毎月あり、利用者と傾聴中心に関わっていただき気づいた事柄については口頭で報告を頂いている。	

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や会議での話し合いにより理解は出来ていると思われる。 人員不足の時や入れ替わりが多く落ち着かない時、夜間は玄関の施錠をしてしまう現状がある。	身体拘束を必要とする利用者もなく、拘束ゼロのケアに取り組んでいる。玄関は安全確保のため施錠している。離脱傾向の強い利用者があるが、外出したいという気持ちを大事にし、一緒に施設周りを散歩している。利用者はほとんどホールで1日を過ごしているが、職員同士声を掛けあい所在確認を常に行い、安全確保に努めている。職員は年1回、法人主催の身体拘束勉強会に参加し、意識を高め取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修での学びを活かし全職員で意識を持ち努めている。 言葉で使いで気になる点などある時は個別に話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援については学ぶ機会もあるが、成年後見制度についての学びは少なく勉強不足と思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行なっている。 契約時にはひとつひとつ読み上げながらの確認を行い、質問にも答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で出た意見をまとめ、実践できそうなものは話し合いながら取り入れていくよう努めている。 職員に伝えられた意見は管理者にも報告し、会議の場で話し合い、共有している。	利用者の意見・要望については会話と合わせ、表情、行動から判断し受け止めるよう取り組んでいる。家族の来訪は週1・2回から月1回位という状況であるが、行事の際には殆どの家族が来訪され利用者と共に過ごされている。家族会は年1回、3月に、運営推進会議と地域交流会に合わせて行い、懇談会、食事会も行っている。また、サルビア祭の際には地域ボランティアの楽器演奏、踊りなどを楽しみ、出店等に合わせた行われるカレー祭も楽しんでいる。ホームの新聞を年数回発行し、利用者の生活の様子を家族にお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に意見を聞くようにし、アンケートなども用いる等している。 反映できるようにも努めている。 職員が意見を話しやすい雰囲気作りや方法を考えていく必要は感じている。	ケア会議を月1回開催している。利用者個々の様子の検討と合わせて、業務内容を中心に話し合いたい議題を事前に「何でも書いて下さいシート」で提出しそれに従い実施し、サービスの向上に繋げている。年間個人目標をチャレンジカードに記載し、設定時、中間フォロー、最終の年3回管理者による個人面談が行われスキルアップに繋げている。また、年1回ストレスチェックも年度末に行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回面談も行き、代表者などと直接職員が話す機会を設けている。 この仕事についてのやりがいや各自の向上心についてはこれからも課題だと思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、現場リーダーが4月から代わり、落ち着かない環境にはなっている。法人内での研修は多くあり学びは出来ていると思う。 OJTについては職員の入れ替わりもあり不十分だと感じる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が変わったこともあり相互訪問等を行えていない。管理者が参加した研修において他の施設とのつながりは構築中である。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	提供情報や日々の関わりの中で本人の思いを汲み取り安心した毎日を送ってもらうように努めている。また、一緒に過ごす中で信頼の構築を大切に行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に管理者が行なっている。 契約時や事前の申込みの際に直接話しをしながら聞き出せるように努めている。 入居してからは職員もご家族の声を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と面談を行い、どの様な暮らしを希望するのか伺っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事作りや掃除なども行なっている。 本人の思いに寄り添いながら話をしたり、言葉がけにも意識しながら行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には最近の様子も伝えるようにし、ご家族の思いも聞きながらどの様に支援していくか一緒に支えていける関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得られる時には環境作りや馴染みの場所へのお出かけを行なっている。	近所の方や牛乳屋さんなどの出入りの業者とも顔見知りになり親しく交流をしている。また、併設特別養護老人ホーム行事にも参加し、楽器演奏、アニマルセラピー等を楽しんでいる。合わせて馴染みの美容院に出掛ける方や床屋さんに出掛ける方も数名いて職員がお連れしている。更に、利用者の希望のものを買いに出掛けたり、食材の買い出しにも交代で出掛けている。利用者名で年賀状、暑中見舞いを家族にお出しし喜ばれている。	

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	会議でも話し合いを行い、情報共有をして いる。どうしたら全体での関わりが出来るか を考えながら努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣の施設に移られた方のところにも何人か で顔を出したり、つながりを持ち続けていけ るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	会議での話し合いで情報共有し、本人本位 の生活になるように努めている。定期的に ケア内容の見直しも行なっている。	自分で決めて頂くことを大切にし、洋服選び、好みの飲 物・お菓子等、選び易いような提案を行い、意向に沿 えるようにしている。また、様子を見て居室でお話を伺 うようにも心掛けている。気づいた言動等はパソコンのケ ア記録に纏め、職員は出勤時に確認し口頭でも申し送 りを行い思いや意向に沿った支援に取り組むようにし ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	本人や家族から話を聞き、把握できるよ うに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一緒に過ごす中で気付いたことを記録に残 し、情報共有している。その方の出来ること を探すようにも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	定期的に担当者を中心に見直しを行なっ ている。	職員は1～2名の利用者を担当し、モニタリング、居室 管理、生活用品の補充等を担当している。また、利用 者の1日の流れを纏めた24時間ノートも作成し、カン ファレンスで話し合い、それを基にケアマネージャーが プランを作成している。家族の希望はケアマネージャ ーがお聞きし、短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月で 見直しを行い、状態に変化が見られる時には随時の見 直しを掛け、利用者一人ひとりに合った支援に取 組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に残し、共有している。また得た 情報をもとにケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ない決めつけず、できそうな事柄に ついては一度行なって見て検討するよ うに努めている。		

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源についての把握は不足しているように思える。おたっしやカフェや地域との関わりを通していく中で学んで行くように務める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態で家族と話し合い受診が必要と判断すれば適切な科に受診している。	現在、全利用者がホーム協力医をかかりつけ医としており、年1回、全利用者が健康診断も受けている。契約の訪問看護師が週1回来訪し利用者の健康管理を行い、また、24時間対応可能で、協力医との連携の上受診が必要と判断した場合には協力医で受診している。歯科については定期的な往診を受け対応している。その他の専門医に受診する場合は家族が御連れしている。	協力医による定期的往診などで更に医療支援の充実を図られることを期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることや気付いたことは週一回の訪問看護師に伝えている。看護師はその場で確認している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係との連携は主に管理者やリーダーを中心にして努めて行くようにする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に一度は説明し、確認はとるようにしている。また、気持ちは変わることもあるということから対応についての話し合いは継続して行なって行くようにする。	利用契約時、重要事項の説明の中で重度化、終末期についての対応を説明し、意向をお聞きしている。終末期に到った時、改めて家族、医師、訪問看護師、ホーム職員で話し合い希望を確認し同意を頂き、医療行為を必要としない場合に看取り支援を行うようにしている。また、併設特別養護老人ホームへの住み替えも含めた支援にも取り組んでいる。開設以来数名の利用者の看取りを行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、応急手当や初期対応の訓練は不足していると思われる。訪問看護師への連絡体制は出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練は行っている。町会長、組長、日赤奉仕団、公民館女子の役員の方、近隣の組の地域住民の参加もお願いしている。その際に運営推進会議を設け話し合いも行っている。	年2回併設特別養護老人ホームと合同で消防署立会いの下、利用者全員参加で、また、町会長はじめ地域住民の皆様の参加もお願いし防災訓練を実施している。特養と合同での消火訓練を行い、ホーム単独では夜間想定、日中想定での避難訓練を主に地域住民の協力を得て実施している。地域住民応援者の対応について確認したり、車イスを使って併設特別養護老人ホームまでの避難・移動も行い、行動確認も行っている。地域との防災協定も結ばれており、訓練に合わせ運営推進会議を行い、防災意識の向上にも努めている。備蓄として「水」「レトルト食品」「非常食詰め合わせ」等が準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声かけをするように努めているが、配慮にかけた声かけがあるときも見受けられる。	言葉遣いについては特に気を配り、馴れ合いの声掛けにならないよう注意を払い対応している。排泄介助には配慮し、小さな声で回りにわからなようお連れしている。呼び方は苗字、名前を「さん」付けでお呼びしている。年1回、法人主催の「倫理、コンプライアンスに関する研修」に参加し意識を高め取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定につながるような声かけに意識し、工夫しながら意向を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望に添えていない現状もあり、やることなく頭を伏せている方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が今まで続けてきた生活を軸にしながら自分で行ってもらったり、衣服に関しても自分で選んで貰えるような声かけをしてるように務める。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを見極めながら一緒に行うことの大切さは理解している。入居者によっての力の差がどうしてもある為、職員が間に入りながらできるだけ自分の物は職員と一緒に片付けを行なってもらうようにしている。	若干名の方が介助が必要な状況である。職員も同じものを一緒に食べ会話をしながら時間を過ごしている。昼食は併設特別養護老人ホームの厨房で調理したものをお出しし、夕食は職員が冷蔵庫の中の食材で、昼食、肉や魚などとダブらないように調理している。食材は週2回、利用者同行で近くのスーパーまで買い出しに出掛けている。利用者は洗いや、テーブル拭きを中心に積極的にお手伝いに参加している。地域ボランティアの参加も頂き、「そば会」「カレー会」「七夕饅頭作り」等も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については記録に残し共有している。その中で本人の状態を見ながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医にも協力してもらいながら行なっている。 口腔ケアに関しては法人全体での取り組みとして行なっている。		

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	会議でも議題として話し合いながら検討している。 排泄チェック表を用いて情報を共有し、間隔や時間の見直しも行なっている。 個々の状態に合わせての排泄支援を行っている。	自立されている方と一部介助の方が数名ずつおり、全介助の方が若干名という状況である。ホームとして布パンツ使用にこだわり、一部介助、自立の方はほとんど布パンツ使用で、介護用品の削減に繋げている。排泄チェック表を用い個々のパターンに合わせ回りにわからないよう気遣いしトイレ誘導を行っている。排便促進のために定期的に体操を行い、寒天・海藻等を食材に用い、牛乳、お茶、スムージー等の水分摂取も心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の運動を取り入れたり、散歩を通じて体を動かしたりしている。 カスピ海ヨーグルトや、スムージーも取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向での入浴に努めている。 入浴の間隔を見ながら誘っている。	一部介助の方が半数強で、見守りで自立されている方と全介助の方が若干名ずつという状況である。基本的には週2回の入浴で、希望により3回入浴される方もいる。一般浴が難し方は併設特別養護老人ホームのリフト浴も使用している。季節により「ゆず湯」「リンゴ湯」等も楽しんでいる。また、年2回のホームの床掃除の日に合わせ、近くの温泉施設に出掛け楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の様子や夜間の様子も考慮しながら休んでもらうようにしている。 休める環境作りにも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容についての共有は工夫が必要である。 臨時薬内服時等は内服後の経過を記録に残し、変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみな事が引き出せるようなコミュニケーションは心がけている。 喜びのある日々になれるような関わりはまだ不十分であり今後の検討が必要。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族が対応し、外出されていることは多いと感じられる。 職員同士でも工夫しながら外出の機会を設けられるように努めていく。 外出出来る方と出来ていない方に偏りが見られている。	外出時に自立歩行できる方、シルバーカー使用の方、車イス使用の方がほぼ三分の一ずつとなっている。日常的には周りを散歩したり日課としてホームのゴミ出しをし、畑の収穫等で体を動かしたり、ホームのテラスでお茶を飲みながら寛いだりしている。また、交代で食材の買い出しに出掛け、少人数に分かれドライブを兼ね花見、バラの見学、紅葉狩り、ブドウ狩り等にも出掛けしている。更に、秋には松本音楽文化会館で開かれるモーツァルト音楽会も鑑賞予定である。	

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行なっている。買い物のお会計でお金を出してもらうようにする時もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は入居者さん本人からは出ていないと思われる。手紙等については職員が書いて出している。そこに入居者さんが参加できるような工夫が必要である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快がないように配慮はしている。それぞれの方が好きな場所で過ごされている。	開設から19年目を迎える当ホームであるが、清掃、整理整頓が行き届き、清潔感が漂っている。玄関を入るとエレクトーンと華やかな日本人形が迎えてくれる。ゆとりのある共用部分の数ヶ所にはソファが置かれ寛ぎのスペースが設けられ、壁には絵手紙等の作品が飾られている。また、テラスの並びにはホームの家庭菜園があり、地域住民の協力も得て野菜の栽培を共に楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の方については居場所の工夫が必要に感じる。気の合った入居者さん同士と一緒に座っていたりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの物や、好みの物を持ち込まれているかたは多くいる。本人にとっても居心地良い空間ではないかと思われる。	洋室6部屋、和室3部屋という居室は希望に沿い利用していただいている。各居室には洗面台と大きなクローゼットが備え付けられ、暮らしやすい作りとなっており、居室のモップ掛けも利用者の日課となっている。壁には絵手紙等の作品や家族の写真、更にペットの写真やぬいぐるみ等も持ち込まれ、自由な生活を送っていることが窺えた。また、各居室はホールを囲むように配置されており所在確認も容易となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは何か？その出来ることに対して分かることを組み込んで活かしていくことも今後の課題と思われる。ホコリを気にかける方に対して分かる位置にほうきとちりとりを置くことによってその方にとっての出来ることが増えた。		